

---

プロジェクト **ASAF 対応**

項目 **開示原則 DP に対する ASAF 会議での発言案**

---

### 本資料の目的

1. 2017 年 7 月に開催予定の会計基準アドバイザー・フォーラム (ASAF) では、国際会計基準審議会 (IASB) が公表したディスカッション・ペーパー「開示に関する取組み－開示原則」(以下「開示原則 DP」という。)に対する初期段階の考えを共有するセッションが設けられる予定である。このため、本資料は、当該 ASAF 会議における ASBJ 事務局の発言案について、ご意見をいただくことを目的としている。

### ASBJ 事務局の発言案

2. ASBJ 事務局では、ASAF 会議での発言案を次のように考えている。
  - (1) 開示原則プロジェクトの結果として、企業による開示が、作成者と利用者の双方にとって現在より良いものとなることを目指すべきと考えられる。より良い開示とするためには、従来よりも強調すべき情報を特定してその開示を奨励する一方、不要な情報を特定してその開示を削減していくことが必要になると考えられるが、開示原則 DP では、それがどのように達成され得るのかについて、十分に検討されていないように思われる。
  - (2) 開示の議論は、財務諸表が有用な情報を厳選した 1 つのまとめであることを念頭に有用性等を検討すべきであると考えられる。デジタルの時代においては、仕訳データさえ提供されれば、それを短時間で解析することができるため、それで十分と考える利用者もいるかもしれない。しかし、IASB は、要約情報としての財務諸表をどのように提供するのかという点に焦点を当てるべきであると考えられる。この点を踏まえると、いわゆる「紙ベース」の財務諸表がどうあるべきかを検討することが、結果的に本プロジェクトの成功につながると考えられる。

### ディスカッション・ポイント

ASAF 会議での発言案について、ご質問やご意見があればいただきたい。

以 上